

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 098	提案機関名 (社)神奈川県園芸協会(県果樹組合連合会)
要望問題名 果樹の凍霜害対策技術の確立について	
要望問題の内容 【背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等)】 ウメ栽培は、平成22年3月末の凍霜害で、県西・北部地域は甚大な被害を被った。 果樹経営での危機管理は異常天候を察知し、早くその対策を考えるかであるが、凍霜害は、雹などの気象災害と比べ、その前兆傾向で発生の予測が可能と言われ、果樹農家の一部では、午後の露点温度等の気象状況から早朝の凍結を予測している者もある。 この露点温度による予測手法として、その確実性を確認し技術化できるよう事例分析による技術確立を要望する。 また、その対策についても従来型の資材の他、新たな資材情報の提供もお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術所 ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター	担当部所	果樹花き研究部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 消費者ニーズに合致した果樹有望品種の安定生産技術の確立			
対応の内容等 降霜を予測するお考えについては、アメダス等のデータから露点温度を算出することが可能と考えられますが、霜害の発生は周辺の地形等の局地的な環境にも影響され、代表的観測地点からの予測には限界があり、その対策についても今回のような広範囲に大きな被害をもたらす凍霜害では無いのが現状と考えられます。 被害回避が可能な程度の凍霜害につきましては、本県のような住宅地と隣接する生産環境では燃焼法等の利用は難しいと考えられますので、周辺環境に影響の少ない資材について情報提供いたします。 また、凍霜害予防資材「霜ガード」について、山形県園芸試験場でオウトウ、リンゴでの一定の効果が確認されておりますので、ウメに対する効果について検討いたします。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			